

# エレベータ内デジタルサイネージ 説明資料



**FUJITEC**



## 普及が加速

近年、交通・商業施設・店舗・屋外と様々な場所で当たり前前に設置されるようになり、今後も更に普及することが予測されています（※）。

（※） CARTA HOLDINGSの発表によれば、毎年増加を続け、2027年には2023年比174%増となる約1400億円の市場規模になるとの予想もあります。

([https://cartaholdings.co.jp/news/20231221\\_1/](https://cartaholdings.co.jp/news/20231221_1/))

### エレベータ内での案内例

建物案内・イベント案内・商品CM etc.

### エレベータ内にサイネージを設置する建物例

ホテル・事務所ビル・商業施設・工場 etc.

## 多数のメリット

エレベータへのデジタルサイネージ設置には多数のメリットがあります。

- 視聴率が高い（注目率が高い）
- ターゲットを絞りやすい
- 繰り返し視聴による広告効果
- 閉鎖空間内での気まずさ解消

今後対応は増えていくものと想定されます。

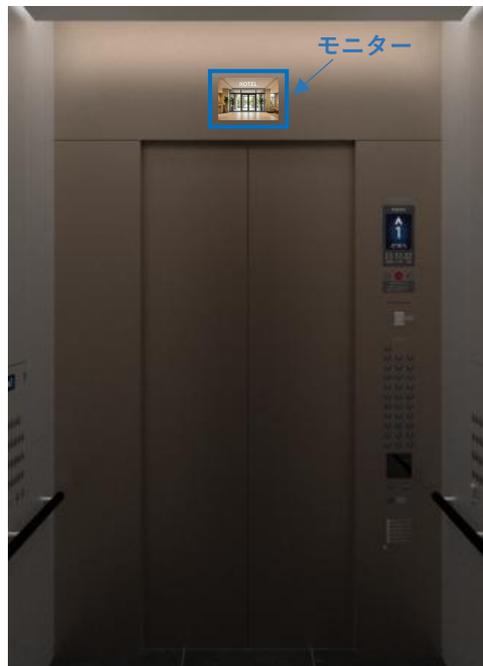
## エレベータ内で指定の情報を表示

建物利用者への情報共有や商品の宣伝、建物の紹介等、  
様々な情報をエレベータ内に設置したモニターに表示させます。

(リターンパネル設置イメージ)



(幕板設置イメージ)



※モニターサイズは設置位置・設置パネルサイズにより10~15インチ程になります

# FUJITEC



(広告表示イメージ)



(ホテル案内表示イメージ)



(館内案内表示イメージ)



## 対応方式は主に3種類

- 映像配信型（デジタル）：建物側映像配信設備より映像を送り、デジタル映像のまま表示
- 映像配信型（アナログ）：建物側映像配信設備より映像を送り、アナログ映像に変換して表示
- スタンドアロン型：エレベータ内にてSDカードやUSBメモリなどのメディアを介して映像表示

### 対応方式による比較

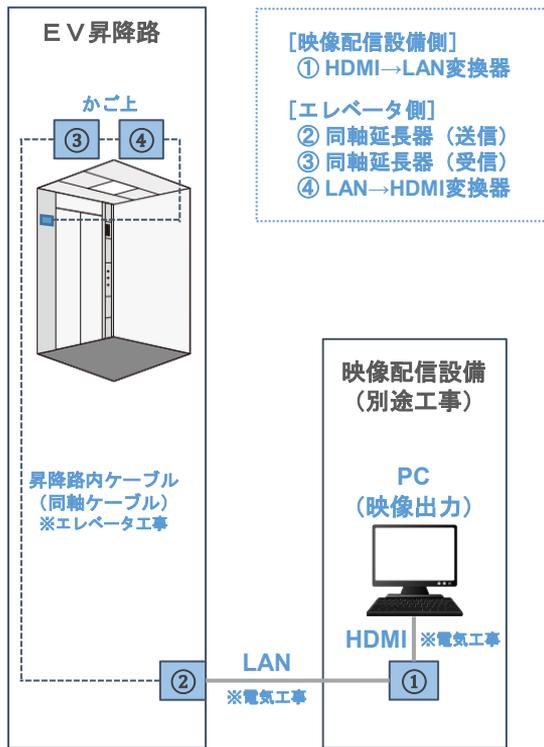
対応方式	エレベータ側での必要機器	映像配信設備側での対応	【コスト】	【画質】	【利便性】
映像配信型 （デジタル）	昇降路内ケーブル（※1）でのデジタル信号配線用機器（※2）およびLAN-HDMI変換器が必要（※3）	特に無し （デジタル映像配信のみ）	<b>高い</b> ・同軸延長器、LAN-HDMI変換器設置	<b>高い</b> ・デジタル映像表示	<b>高い</b> ・映像の変更は配信映像の切替えで可
映像配信型 （アナログ）	特に無し	アナログ映像への変換 （ダウンコンバーター）	<b>安い</b> ・エレベータ側での機器設置不要	<b>低い</b> ・アナログ映像表示	<b>高い</b> ・映像の変更は配信映像の切替えで可
スタンドアロン型	エレベータ内にメディアプレーヤーが必要（※3）	映像データを入れたメディア（SDカード、USBメモリ等）を用意	<b>中程度</b> ・メディアプレーヤー設置（設置に伴う改造対応）	<b>高い</b> ・デジタル映像表示	<b>やや煩雑</b> ・映像変更時はメディアの用意、エレベータ内での差し替え作業要

（※1）同軸ケーブル（または光ケーブル：オプション）＜LANケーブル配線不可＞ / （※2）同軸延長器（または光延長器）

（※3）必要機器は一例となります。また標準機器の設定はありませんので機器選定含め映像配信業者との打ち合わせが必要となります。

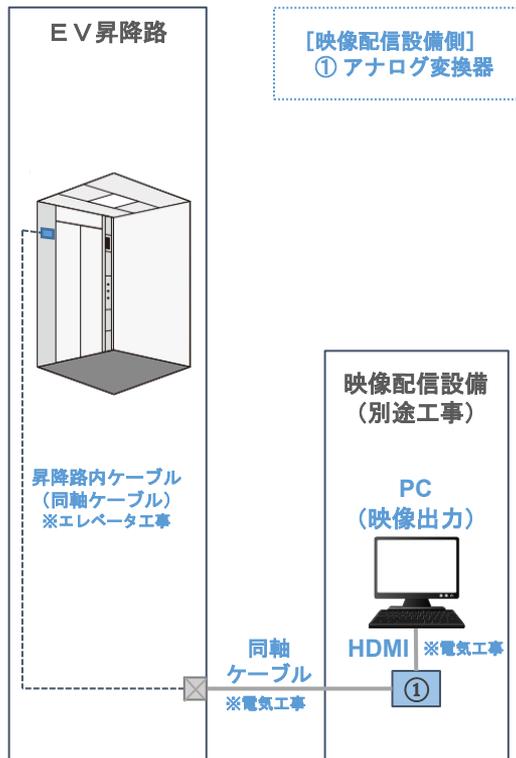
# 対応方式による系統比較 《必要機器・配置》

## 【映像配信型（デジタル）】

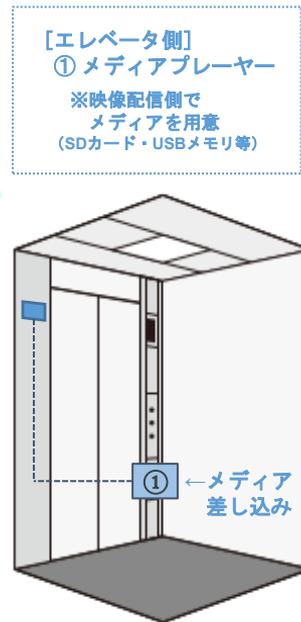


※本機器配置は一例です。  
エレベータ側設置機器の選定含め  
映像配信業者との打ち合わせにより詳細決定

## 【映像配信型（アナログ）】



## 【スタンドアロン型】



※メディアプレーヤーの機器選定  
および設置場所は打ち合わせにより詳細決定

